

平成 26 年度 富山市高齢者総合福祉プラン地域懇談会（保健所開催）議事録

1 日 時 平成 26 年 8 月 24 日（日）午後 2 時～午後 3 時 30 分

2 場 所 保健所 2F 健康教育室

3 参加者

【市民等】 18 名

【事務局】 橘福祉保健部次長、井上保健福祉部参事、宮崎保健所保健予防課長、東保健所健康課長、茶木介護保険課長、石井長寿福祉課長

4 内 容

(1) 次長あいさつ

(2) 出席者紹介

(3) 議 事

1 事務局説明

① 長寿福祉課（14 時 05 分～14 時 20 分）

② 介護保険課（14 時 20 分～14 時 55 分）

5 質疑応答

市民等

2 点ほどお願いというか希望がある。資料に書いてある基本的な中身等についてはやっていたいので感謝している。

1 つは介護に関する件。資料 71 ページの「望ましい介護の生活形態」について 6 割近くの方は在宅で暮らしたいということだが、実際は親・配偶者の介護をしている方は 8 割がストレスを感じ、1/3 が憎しみを感じているという穏やかでない話がある。在宅で暮らしたいという方の中でも、家族のみの介護を希望する方と訪問介護やデイサービスを利用したいという在宅希望の方がいる。本人の希望とそれに対する家族の対応というのは違いがある。母親が 84 歳なのだが急に認知症みたいになったので、地域包括支援センターに相談して介護認定を受け、デイサービスを利用している。支える地域包括支援センターの職員の方々にはケアマネージャーや社会福祉士等がいらっしゃるが、団塊の世代が 10 年 15 年と生きるとすれば、今のシステムでは地域包括支援センターの職員がダウンしてしまう。一般の住民に対し専門知識を持った方が間に入って橋渡しをしてもらえるのだが、その方々がダウンしてしまうと、幸せに充実した生活を高齢者も送ることができないし、介護する人にとっても不幸なことになると思う。支える人の体制については（策定する）計画の中に入っているだろうが、そこをお願いしたい。

もう 1 つは高齢者全体のことだが、資料 7 ページにある「みんなでつくる、ぬくもりのある福祉のまち」ということは、地域全体で我々ができることをサポートしようという意識がないと実現は難しい。地域活動の中で昔から言っているのは、元気な人（高齢者を含めて）はそうでない方を助ける活動をしようというこ

とと、団塊の世代が地域の中で福祉活動に取り組もうということと呼びかけている。しかし実際は難しい。多少農村部であっても、1人暮らしの方や高齢者のみの世帯が増えてきていて、夫婦の中でどちらかが亡くなったり、だんだん体が弱ってくるということで、地域が助けざるを得ない状況がでてきている。地域の中で除雪やゴミ出し、見回りなどそれぞれの立場でやっているが、支える人が少ない。社会福祉精神がないと追いつかない。これからもっと地域の中でやっていかないといけない。いざという時、防災関係で要支援者を助けようという時に、誰がどこにいてどういう体制でどのようにやるかは永遠の課題だが、それに向けて地域はやっているが、地域の事情は町内ごとに違う。蜷川はアパートが多く都市的なのところだが、年寄りの状況は変わりなく増えている。誰が助けるかといえば、地域の民生委員や町内会の幹部が現実なのだが、そういった方を充実しなければならぬ。砺波市では、社会福祉推進員をうまく使って地域のネットワークをつくって助け合っていくシステムがあり、市でも桜谷校下でやっているが現実では難しい。蜷川でも3年前にやってみた時にはネットワークが18あったのが、現在は13しかない状況で、ネットワークを作って助けようという方を集めるのが大変。これが現状。意識づけと助ける人を増やすような施策をお願いしたい。そういう人がダウンしたら誰が助けるのかということをお願いしたい。一般の第一線のところで助ける人を増やす施策や工夫を計画に盛り込んでいただきたい。

長寿福祉課長

町内あるいは校下で地域活動を強化し、積極的に取り組んでいただいていることに感謝している。また現状では地域の担い手等にも限界があり、地域のネットワーク化や社会福祉精神の醸成等の必要性についてご指摘いただいたものと考えている。

資料 57 ページにある「生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加」に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・地域資源の発掘や開発等、そのネットワーク化などを行う「生活支援サービスコーディネーター」を各地域に配置していくことと定められたところである。この辺りの取り組み強化において、地域の方々には協働で参画をお願いし、ご指摘の点について少しでも負担軽減あるいは解消につながるのではないかと期待している。

また介護事業所のみならずNPO、民間企業、ボランティア等多種多様な事業主体が各々の持ち味を発揮していく時代になっている。これらの取り組みはまだ始まったばかりの段階であるが、民間企業でも意識が高まってきていて、例えば市では製薬会社と、認知症の方が住みなれた地域で少しでも長く在宅で過ごせるよう取り組んでいく協定、あるいは新聞社、電力会社、ガス会社等が日々訪問するなかで健やかに暮らせるよう見守る協定等が芽生え始めており、社会全体で社会的弱者である高齢者や認知症の方々を見守っていく体制を構築していけないかと模索している状況である。

保健予防課長

介護する方の心の負担感は非常に厳しいと認識している。介護する方が憎しみを感じてしまうという非常に悲しいことが起きてしまう。介護する方の心のケアについては、3年前にアンケートを行っており、その結果を踏まえて介護する方の中に抑うつ状態にある方がかなりいることが分かった。介護する方と触れ合うことが多い介護サービス提供者やケアマネージャーに対し心のケアに関する研修会を開催し、介護する方の心の負担感を少しでも取るよう技術を身に付けてもらう取り組みを行っている。高齢者の心の問題全体については、老人クラブ連合会に依頼し、高齢者のうつ予防に関して各校区で研修会を行っている。

市民等

資料 57 ページにある「生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加」の題目はとてもすばらしいが、行政だけの力ではできないと理解している。民生委員、長寿会、町内会の力を借りないと達成できないと思う。昨年 12 月から民生委員をしているが、元々この地域の者ではないので、例えば町内にどのような高齢者がいるかまったく分からない。自分で尋ね歩いて調べたり、地域包括支援センターの方に名簿を借りてやっているが、自分で歩いて作った資料と地域包括支援センターの資料が一致しない。ひとり暮らし高齢者名簿の資料を富山市からもらったが、突合してみると、情報が共有されていないなど無駄なことをしている。ひとり暮らし高齢者名簿には世帯分離している人が載っている。実際回ってみると家族と同居の方もいるわけで、民生委員が毎月安否確認する必要がない方も掲載している。私は蛭川と八日町の担当なのでひとり暮らしで見守りの対象は少ないが、蛭川小学校近辺の住宅密集地は、1 人の民生委員がひとり暮らし高齢者宅に毎月行っているが、何 10 件も回っている。それでも情報共有がなくて洩れている方もいると思う。個人情報保護もあるだろうが、60 歳以上の高齢者名簿、同居者がいるかどうかの住民台帳から引っ張り出した正確な資料については、例えば蛭川の民生委員の会長に持たしてもらい、それを借りる形にしてもらえば、かなり無駄な作業が減る。現役で仕事しながら民生委員をすることはとても無理。平日の研修会も欠席。たまに会社に無理を言って休みをもらって皆さん頑張っているが、その辺り情報をもらうことができないか。

長寿福祉課長

資料 22 ページに掲載している、65 歳以上の在宅ひとり暮らし高齢者台帳搭載者 7,608 名は、地域の推進員の皆様に回っていただいて把握できた貴重な数である一方、資料下部にある 23,916 人は、住民票上の 1 人暮らし高齢者数である。この差異については、かなりの数の方が施設入所等あるいは世帯分離しているということが推測されるが、住民票と生活実態の差異については現行制度上、管理面で一致させることは難しい。また個人情報保護の観点からも管理・運用については微妙な取り扱いであり苦慮している。皆様の負担軽減となるよう情報の共有や効率的な運用等について検討してまいりたい。

市民等	<p>世帯分離して施設入所の方々は我々の手を離れている。問題は在宅の方々がどんな状況でどういう家族構成なのか、それで回らないといけないのかそういう情報が欲しいと申し上げている。同居している人が現役で仕事をしているにもかかわらず世帯分離しているために、資料に掲載されてくる。そうすると回らないといけない。在宅の人の状況がどうかを知りたい。在宅の人の情報をいただけるものならいただきたい。</p>
長寿福祉課長	<p>諸事情により同居家族がいるにもかかわらず世帯分離しているケースがあると思われるが、現行のシステムでは対応は困難であり、お時間いただいて検討させていただきます。</p>
長寿福祉係長	<p>根本的に、ひとり暮らし高齢者台帳に関してお願いしているのは、市で把握できる部分の住民基本台帳上の名簿となっている。実際のひとり暮らしの方々を調べていただいて、それを正しく登録したものがひとり暮らし高齢者台帳になる。</p> <p>台帳は、民生委員さんが過去から足を使って調べていただいた情報を一元管理しているものであり、それを1年に1回更新をお願いしている。</p>
市民等	<p>60歳以上の予備軍もいるわけだから、60歳以上の名簿があれば町内一巡するので助かる。ひとり暮らし高齢者名簿を基に回ってみると、実は同居者がいたとか、老々で年寄りが2人しかいないとかということが分かる。順番にその(65歳以上の)中に入るわけだから、60歳の定年を迎えた人は、毎日が日曜日の方が多々いるので名簿があれば非常に助かる。ひとり暮らし高齢者名簿と(は別に)蜷川の地域包括支援センターの担当者の方が足繁く一生懸命回って高齢者の名簿を作っている。無駄なことがもっと円滑にいくのではないかと。国政調査もやっているのだから、それを使えるかどうか分からないが、なんとか考えていただけないか。そういうものがあれば、無駄なエネルギーをもっと有効に使えるのではないかと。</p>
長寿福祉係長	<p>システム上の課題もあるため、今後の検討とさせていただきます。</p>
市民等	<p>うちの事業所のケアマネージャーは、130人ほどの高齢者を担当しているが、排泄をとらえた調査をしたところ、在宅の方でトイレ以外で排泄している方が5名、紙パンツをはいているがトイレへ行く方が10名くらい。130人中120人くらいの方がオムツをするようになったら在宅生活は無理というデータがある。</p> <p>施設から在宅へ移行すると言われるが、現状はトイレに行けなくなったら施設に入らないといけないというその意識をしっかりとっていかないと、在宅生活の維持は難しい。この部分についても、2025年を目途にしたものだろうから、この3年間で足掛かり的なものが施策の中で考えていただけたらというのが現場の思いである。</p>

介護保険課長

施設から在宅へ、という移行の話がでたが、考え方だけ申し上げると、入所が必要な方は従来どおり施設に入るという選択がある一方で、ご承知だとは思いますが、最近では身近なところでいろんなサービスが受けられる。そして新たにいろんなサービスができたということで、在宅で生活できる仕組みを更に充実していきたいという観点である。また当然必要な施設についても充実していきたいと考えている。

(以 上)